

# 背景

- 外来は短時間に多数の患者と職員が交差するために、患者-職員間、患者-患者間で感染が拡大するリスクが高い。
- 感染予防のために、病院・診療所の受付や救急外来などにおいて、適切な感染予防対策を実施することが重要である。

# 倫理的配慮

- 名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会の承認 (ID:15019) を得た。
- 質問紙は所属長に送付し、調査実施の許可を得られた場合、感染対策部門の担当者に転送され、回答の返送をもって同意とした。

# 目的

外来医療従事者への、感染対策に関する指導状況と実践状況を明らかにすることを目的とした。

# 研究方法

- 【対象】 感染管理認定看護師あるいは感染症看護専門看護師の所属する全国1,369施設
- 【調査期間】 平成27年11月1日～平成28年2月29日まで
- 【方法】 外来医療従事者への感染対策に関する指導状況や、外来医療従事者による感染対策の実践状況などを質問紙にて調査した。

# 結果・考察

・回答数：570施設（回答率：41.6%） ・有効回答率：569施設（有効回答率：99.8%）

## 1. 回答施設および回答者の属性

(表1、2)

- 回答者は看護師543人（95.4%）、医師15人（2.6%）などであった。
- 回答施設は、開設主体が国42施設（7.4%）、公的医療機関235（41.3%）などであった。
- 感染対策委員会と感染対策チームを有りと回答したのはそれぞれ、566施設（99.5%）、560施設（98.6%）であった。

表1. 回答者の属性 (N=569)

項目	n ( % )
職種	
看護師	543 ( 95.4 )
医師	15 ( 2.6 )
薬剤師	3 ( 0.5 )
臨床検査技師	4 ( 0.7 )
事務職	3 ( 0.5 )
その他	1 ( 0.2 )
感染管理に関する資格	
有り	544 ( 95.6 )
無し	25 ( 4.4 )
感染管理の職歴 (平均年数)	8年±13.87

表2. 回答施設の属性 (N=569)

項目	n ( % )
開設主体	
国	42 ( 7.4 )
公的医療機関	235 ( 41.3 )
社会保険関係団体	6 ( 1.1 )
医療法人	111 ( 19.5 )
個人	6 ( 1.1 )
その他	169 ( 29.7 )
病床数	
中央値 341	
～100未満	9 ( 1.6 )
100～199	93 ( 16.3 )
200～499	313 ( 55.0 )
500～799	122 ( 21.4 )
800以上	29 ( 5.1 )
未記入	3 ( 0.5 )
診療報酬における感染防止対策加算1	466 ( 81.9 )
感染防止対策加算2	89 ( 15.6 )
(複数回答) 感染防止対策地域連携加算	199 ( 35.0 )
該当無し	14 ( 2.5 )
感染対策委員会	
有り	566 ( 99.5 )
無し	2 ( 0.4 )
無回答	1 ( 0.2 )
感染対策チーム	
有り	561 ( 98.6 )
無し	8 ( 1.4 )
感染対策専門の部門 (例：感染制御部、感染管理室)	
有り	417 ( 73.3 )
無し	151 ( 26.5 )
無回答	1 ( 0.2 )

## 2. 外来部門における職員用または患者・家族用感染対策物品の整備状況 (表3、4)

- 職員用の物品については、「外来職員が速乾性擦式アルコール手指消毒薬をえるように設置しているか」の問いに、「十分に有る」「ほぼ有る」と回答したのは合わせて562施設（98.7%）であった。
- 「外来職員の手洗いができるように石鹸を設置しているか」の問いには、「十分に有る」「ほぼ有る」の回答は556施設（97.7%）であった。
- 職員の感染対策に必要な物品は高い割合で整備されていることが明らかとなった。
- 患者・家族用の物品については、「トイレに石鹸を設置している」、「受付や待合室に速乾性擦式アルコール手指消毒薬を設置している」に「ある」と回答したのは、それぞれ525施設（93.4%）、497施設（88.4%）であった。トイレの手拭き用ペーパーやトイレの速乾性擦式アルコール手指消毒薬など整備されている割合の低い物品もあった。

表3. 外来部門における職員用感染対策物品の整備状況 (N=569)

項目	n ( % )
外来職員が速乾性擦式アルコール手指消毒薬をえるように設置してありますか。	
十分に有る	394 ( 69.2 )
ほぼ有る	168 ( 29.5 )
あまり無い	7 ( 1.2 )
無い	0 ( 0.0 )
外来職員の手洗いができるように石鹸を設置してありますか。	
十分に有る	404 ( 71.0 )
ほぼ有る	152 ( 26.7 )
あまり無い	12 ( 2.1 )
無い	1 ( 0.2 )
外来職員の手拭き用ペーパータオルを設置してありますか。	
十分に有る	422 ( 74.2 )
ほぼ有る	131 ( 23.0 )
あまり無い	8 ( 1.4 )
無い	8 ( 1.4 )
外来職員がマスクなどの個人防衛具を使用できるよう準備してありますか。	
十分に有る	461 ( 81.0 )
ほぼ有る	106 ( 18.6 )
あまり無い	0 ( 0.0 )
無い	0 ( 0.0 )
無回答	2 ( 0.4 )

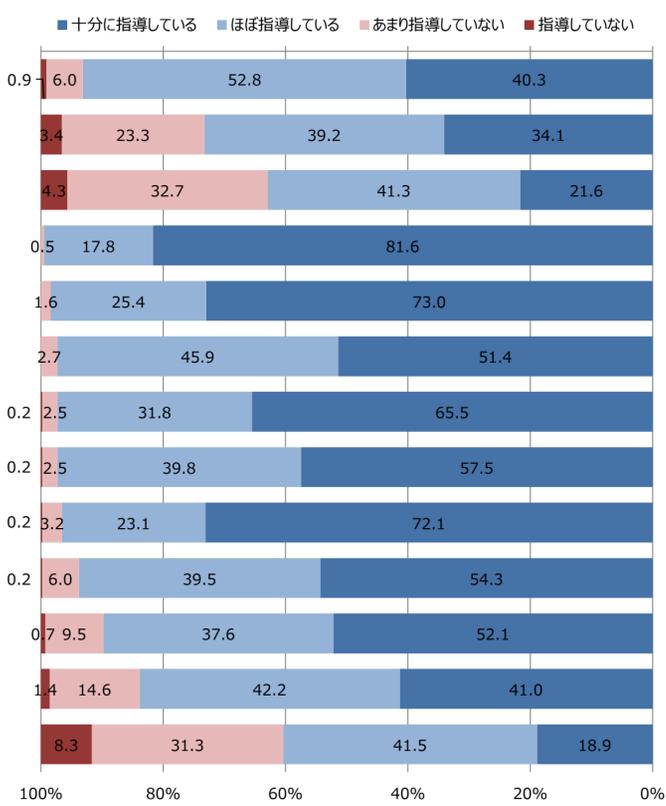
表4. 外来部門において患者・家族用感染対策物品として整備してあると回答したものの (N=569)

項目	n ( % )
(咳エチケット) 職員が患者にマスクを渡す	319 ( 56.8 )
(咳エチケット) マスク販売機がある	411 ( 73.1 )
受付や待合室に患者・家族が使用できる速乾性擦式アルコール手指消毒薬を設置している	497 ( 88.4 )
患者・家族用トイレに石鹸を設置している	525 ( 93.4 )
患者・家族用トイレに手拭用ペーパーホルダーを設置している	338 ( 60.1 )
患者・家族用トイレに手拭用のペーパーを設置している	329 ( 58.5 )
患者・家族用トイレに速乾性擦式アルコール手指消毒薬を設置している	162 ( 28.8 )

## 3. 感染対策部門による外来の医療従事者への指導状況と外来の医療従事者の実践状況 (図)

- 「患者ごとに医療従事者が手指衛生を実施する」の問いでは、「十分に指導している」または「ほぼ指導している」（以下、「指導している」）の回答は、527施設（93.1%）であり、外来医療従事者が「十分実践している」または「ほぼ実践している」（以下、「実践している」）の回答は282施設（49.9%）であった。
- 「鼻咽頭分泌物が目飛散する可能性があるときにはゴーグルを着用する」の問いでは、「指導している」の回答は415施設（73.3%）、「実践している」の回答は209施設（37.2%）であった。
- 「咳やくしゃみのある患者に手指消毒を指導する」の問いでは、「指導している」の回答は、351施設（62.9%）、「実践している」の回答は192施設（33.7%）であった。
- 指導状況と実践状況を比較すると、いずれも指導状況と実践状況に差があり (p< 0.001)、指導状況ほど、実践されていないことが明らかとなった。

指導状況



実践状況

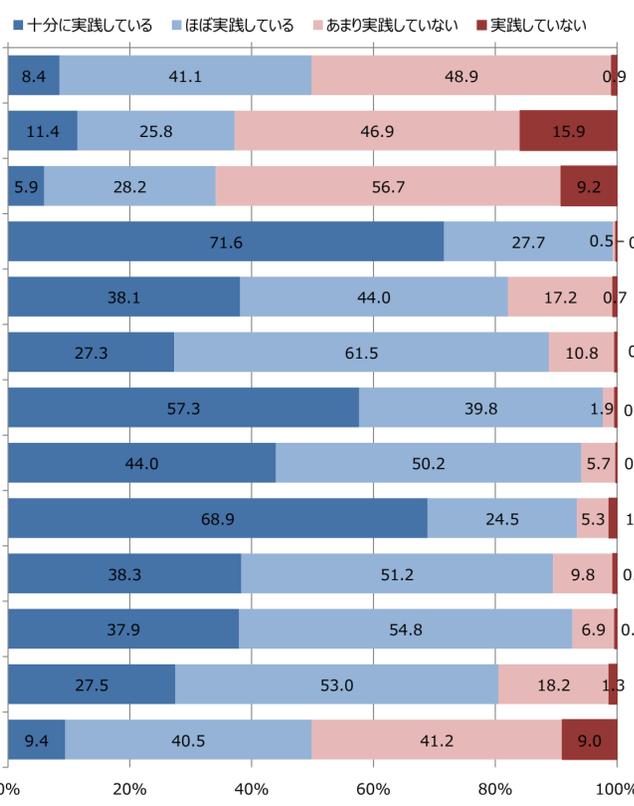


図. 感染対策部門による外来の医療従事者への指導状況と外来の医療従事者の実践状況 (N=569)

\*sign test p< 0.001  
※「無回答」、「機会がない」は削除

## 4. 考察

医療機関の外来部門には感染対策に必要な物品が備えられており、感染対策が実践可能な状況にある。今回の調査では、感染対策部門による外来医療従事者への指導は行われているが、実践に結び付いていないという結果が得られた。今後、病床数や感染対策部門の有無との関連についても分析を進め、なぜ実践に結びつかないのか、その原因を追究して行くことが重要であると考えられた。

# 会員外共同研究者・研究費

- 名古屋市立大学看護学部：鈴木幹三、高久道子
- 研究助成：日本学術振興会・科研費・基盤 (C) ・24593225

# COI開示

演題発表に関し、開示すべきCOI関係にある企業・組織および団体はありません。